

3. 配慮リストの作成とその評価

「1. 通常の学級での配慮の実態に関する調査（調査1）」と「2. 通常の学級で配慮を必要とする子どもたちと配慮の実践に関する調査（調査2）」の結果を踏まえて、配慮リストを「クラス全体に対する配慮事項」と、「特定の子どもに対して特に意識して行う配慮事項」で構成した。以下に、その内容を示す。

（1）配慮リストの構成（資料4参照）

配慮項目は、リスト1（クラス全体に対する配慮事項）と、リスト2 a～b（特定の子どもに対して特に意識して行う配慮事項＜学習面＞＜行動面＞）から構成されている。

さらに参考資料として、リスト1（クラス全体に対する配慮事項）とリスト2（特定の子どもに対して特に意識して行う配慮事項）に示されている項目と＜聞く＞＜話す＞＜読む＞＜書く＞＜計算する＞＜推論する＞＜不注意＞＜多動－衝動性＞＜社会性・コミュニケーション＞という9つの領域との関連性を示した表を用意した。

この表を参考にすることによって、対象となる子どもの課題から、教師が配慮すべき事項を見いだしたり、逆に教師自身の対応が子どものどのような課題に対応しているのかを確認したりすることができるようになっていく。

① リスト1 クラス全員の子どもに対して実施する内容

リスト1では、クラス全体の雰囲気作りを考えており、授業の事前準備／授業のわかりやすさ／子ども同士の関係作り／子どもに対する教師の基本的態度等の一般的なことについての確認が含まれている。クラスに配慮を要する子どもがいなくても、クラス全体への配慮として、このリストの中の数項目を選択し実践に映していくことが大切である。

② リスト2 a～b クラスの中の特定の子どもに対して実施する内容

- a. 学習面に関する配慮事項
- b. 行動面に関する配慮事項

リスト2は通常学級の中でも特定な子どもに焦点を当てた配慮事項を示している。クラス全体に対するものではないので、クラス全体にたいしては実施しにくい事項も含まれている。しかし特定の子どもの特徴に合わせたaかbのリストを選び、リストの中の数項目を実践していくことが必要である。

たとえば、行動面で配慮を必要とする子どもがクラスにいる場合は、リスト2 bの中から2～3項目を選択し、実践に映していくことになる。

③ 参考資料

リスト1（クラス全体に対する配慮事項）及びリスト2（特定の子どもに対して特に意識して行う配慮事項）の項目と＜聞く＞＜話す＞＜読む＞＜書く＞＜計算する＞＜推論する＞＜不注意＞＜多動－衝動性＞＜社会性・コミュニケーション＞という9つの領域との関連を示したのが、参考資料の表である。これらの表を参考にして、子どもの課題を確認したり、新たな配慮事項を選択したりすることができる。

(2) 配慮リストの実施後の意見と今後の課題

作成した配慮リストについて、教育相談事例の小学校の担任等、関係のある小学校の通常学級の担任に活用してもらい、意見や感想を求めた。

この配慮リストが有効だった点として、以下のような意見があげられた。

- ・クラス全体と個別への配慮と視点を変えてクラスを見ることができるようになった。
- ・子ども一人に対して、より細かく見るようになった。
- ・学習面と行動面に分けられているので、チェックしやすい。
- ・自分のかかわりを振り返る機会となった。

また、配慮リストの改善点や要望としては、以下のような意見が出された。

- ・低学年用と高学年用に分けて（できれば学年別に）示されていると良い。
- ・示されている項目の内容をより具体的に示して欲しい。
- ・関連領域を配慮項目順ではなく、領域ごとにまとめて提示して欲しい。（資料4参照）

これらの意見を踏まえて、今後の課題として、以下の点が考えられる。

- ・学年別の配慮内容の検討
- ・項目の具体的な記述
- ・実践後の効果の検証

おわりに

通常の学級における教師のかかわり方やクラスの雰囲気等により、LD、ADHD、高機能自閉等の子どもたちのクラスでの過ごし方は大きく変わってくる。今回の2つの調査は小学校の通常の学級を担当している先生方にご協力をお願いした。お忙しい中、突然の依頼にもかかわらず快く調査にご協力いただいた先生方に深く感謝している。

特別支援教育の進展の中で、このリストがより洗練されたものとなるように、課題としてあげられたことをうけ、通常の学級の中での実践を通し検討を続けていきたい。また、このリストの改訂と共に、幼稚園・保育園を対象とした配慮リストの作成も検討していきたい。

(小林倫代・佐藤克敏・玉木宗久・海津亜希子)

<文献>

- ・E. R. Julian, D. J. Ingersoll, P. M. Etienne, A. E. Hilger: The Impact of Testing Accommodations on MCAT Scores: Descriptive Results, ACADEMIC MEDICINE, Vol. 79, No. 4, 2004.
- ・北海道立特殊教育センター：研究紀要, 17, 2004.
- ・北海道立特殊教育センター：PEARLS OF WISDOM -HOW We shouLD care for LD、ADHD、HFA-, 2004.
- ・熊本県熊本市慶徳小学校：一人一人のニーズに応じる教育へ, 2004.
- ・東京都文京区立駒本小学校：高機能自閉症等軽度の障害のある児童の特別な教育的ニーズに応じた教育課程の在り方に関する研究, 2004.
- ・神戸市立本山中学校：通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症等、特別な教育的配慮が必要な生徒への指導の在り方及び支援の態勢の確立についての研究, 2004.
- ・大阪府吹田市立吹田第2小学校：先生いっしょに考えて－子どもの理解のために－, 2003.

- ・京都府教育委員会：LD・ADHD・高機能自閉症支援ガイドー一人一人の理解と一人一人のニーズに応じた支援のためにー、2004.
- ・特別支援教育推進体制モデル事業に係る調査研究運営会議：特別な支援を必要とする子どもの参考資料、2004.
- ・独立行政法人国立特殊教育総合研究所：LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド、東洋館出版、2004.

